

## 2020 全日本学生個人ロードレース大会 レースレポート

新型コロナウイルス感染に関して感染対策ガイドラインを制定するなど対策を講じながら、競技大会の再開に向けて準備を進めてきた日本学生自転車競技連盟では、社会情勢の確認、加盟校からの意見聴取を経て、

- ・ 無観客大会とする
- ・ 選手スタッフ等参加者に大会14日前からの検温をはじめとする体調管理等を義務付ける
- ・ 当日入場時の検温で基準を超える場合は入場を許可しない
- ・ 会場での感染防止諸対策を講じる

ことにより、9日5日(土)に『2020 全日本学生個人ロードレース大会』を群馬サイクルスポーツセンターで開催した。3月に小田原で開催したトラックレース以来6カ月ぶりとなるレースに、男女合計約240名が参加した。

男子は高低差約40m、最大斜度8%の6kmサーキットを3周する18kmの予選を3レース行い、各組上位30名、合計90名が決勝レースに進出。女子は同サーキットで19名による決勝レースが行われた。

### 【女子】36km

レースは6周で争われた。1周目は全員が一団となり10分21秒でS/Fラインを通過。2周目にペースが上がり10分を切るラップを刻むと、脱落する選手が出始める。容赦なく照りつける太陽と30℃を越す気温の中、中盤までは約10名の先頭集団が1周10分前半のラップで淡々とレースを引っばる。この中から終盤、オープン参加の高校3年生、渡部春雅が抜け出し、トップでゴール。その後、川口うらら(日体大)、太郎田水桜(法大)、中富尚子(京産大)の順でフィニッシュ。

### 【男子】66km

レースは15周でスタート。序盤は8分20秒台のラップで進む。集団から逃げを試みる選手は出るが、何れも1周以内には集団に吸収され、逃げは決まらない。ラップは8分50秒から9分ちょうどの間で、ほとんど上下しない。そんな中、中盤に差し掛かると仮屋和駿(日大)と馬場慎也(鹿屋体大)がアタック。間もなく馬場はドロップするも、仮屋は後続に最大1分差で先行する。後続集団は先行容認ムードで残り周回は8周となった。

この頃から遠方で聞こえていた雷の音が大きくなり始め、このままいくとレース終盤に落雷で選手に危険が及ぶことが予想された。大会本部はこの段階でレース周回を15周から11周に4周短縮することを決定。即座に選手に伝えられた。残り周回3周。

残り周回が少なくなったことを知った集団は先行容認ムードから一変、一気に活性化し先頭を追う。逃げは間もなく集団に吸収され、レースは最終周回に入った。最後の周回でも集団は崩れず、勝負はゴールスプリントに持ち込まれた。ゴールまで300m、集団は最終左カーブを立ち上がり緩やかな上りへ一団のまま突入。そのままスプリント合戦となり、最後の30mで1車身抜け出した依田翔大(日大)が1位でゴール。同タイムで2位 棚瀬義大(朝日大)、3位重満丈(鹿屋体大)が続いた。

### 【結果】 全競技結果(PDF)

女子表彰式(左から2位太郎田(法大)、1位川口(日体大)、3位中富(京産大))



左)男子決勝ゴール(左から1位依田(日大)、2位棚瀬(朝日大)、(3人おいて)3位重満(鹿屋体大))  
右)男子表彰式(左から2位棚瀬(朝日大)、1位依田(日大)、3位重満(鹿屋体大))

